

氏名	梅 津 秀 夫
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 甲 第 1071 号
学位授与の日付	平成 4 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科 外科系 眼科学 専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	オプシンによる実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎 第1報 方法論と光顕所見 第2報 電顕所見
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 増田 游 教授 赤木 忠厚

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【第1報】 不溶性抗原であるオプシンによって実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎(Experimental Autoimmune Uveoretinitis:EAU)の発症を試みた。免疫方法はアジュバントとしてBordetella pertussisとFreund's complete adjuvantを用い、ルイスラットに対してオプシン200~500 $\mu$ gを接種した。結果は54匹中、17匹(31%)にEAUが発症した。病理組織学的には、軽症EAUでは、周辺部網膜や乳頭周囲に限局性に視細胞外節の変性と細胞浸潤を認めた。重症EAUでは視細胞外節から外顆粒層の広範な変性、消失と浸出性網膜剝離の出現、および激しい細胞浸潤を認めた。前部ぶどう膜や脈絡膜の炎症は、臨床的にも組織学的にも軽度であった。オプシンはS抗原やinterphotoreceptor retinoid-binding protein (IRBP)に比べてEAU誘発性が弱く、しかもオプシンによるEAU (OPSIN-EAU)は網膜炎が主体である等の違いを認めた。

【第2報】 OPSIN-EAUの電顕所見について検討した。その結果、網膜炎の展開は、網膜血管周囲炎に続いて、マクロファージによる網膜外層の貪食へと進み、S抗原やIRBPによるEAU (S-EAU, IRBP-EAU)と類似していた。しかし、ぶどう膜の炎症は、毛様体、周辺部脈絡膜を除いて軽度であり、S-EAU, IRBP-EAUと異なっていた。以上の病理学的特徴と低病原性よりOPSIN-EAUの発症起点は、内側網膜血液関門の破綻であり、網膜色素上皮細胞の脈絡膜側表面には、オプシンの抗原が少ないことが推察された。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、不溶性抗原であるオプシンによって実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎を発症させ、病理組織学的検討を加えたものである。比較的誘発が困難であるオプシンを用いて疾患モデルの作成に成功し、眼科領域における自己免疫疾患について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認めました。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認めました。